



## ◆ 国際フォーラム パネル・ディスカッション ◆

## ～世界遺産登録に向けた現状と鎌倉の課題～



左から稻葉信子さん、五味文彦さん、ル・ズーさん、クリストファー・ヤングさん、右端は西村幸夫さん。

「武家の古都・鎌倉」国際フォーラムが2月1日、湘南国際村センターで行われました。午前の部では英国のクリストファー・ヤングさん、中国のル・ズーさん、日本の五味文彦さんの基調講演が行われました。午後の部ではパネル・ディスカッションが行われ、パネリストに基調講演の講師3人と稻葉信子さん、コーディネーターに西村幸夫さんが加わって、2時間にわたり活発な議論を展開しました。パネル・ディスカッションの要旨をご紹介します。

## ●鎌倉の印象――

**西村** 鎌倉に来られたのは初めてというお二人に、鎌倉の印象、調査の印象をお聞きしたい。

**ヤング** 指定候補地の半分ぐらいを見て回りました。ほとんどの寺院が谷に集中していて、町の真ん中でも緑が豊かで、寺院周辺では静けさが保たれているということに強い印象を持ちました。

**西村** ご指摘のあった緑は古都保存法の出発点でもあり、法律によって守られてきた緑であります。

**ル・ズー** 現地を実際に訪れ、何百年か前の文化に触れたような感じです。非常にユニークで独特な土地だと思いました。世界遺産登録の道のりはまだまだ長い。でも登録に向けた作業に加わることができて大変嬉しい。

## ●武家文化について――

**西村** 世界遺産のストーリーになっている武家文化とそれが都市に示されているということが鎌倉の二本柱です。

**ヤング** サムライ文化の説明が必要です。武家が禅宗を感じていたとは私も知らなかった。兵士とは獰猛で野蛮人だと攻撃されてただけに、教養の部分を強調すべきです。

16～17世紀のマルタ騎士団、ポーランドのマルボルグ城などを拠点としたバルト諸國の中世騎士団との比較もできるでしょう。

**ル・ズー** 武家文化とその中身をヨーロッパやアフリカにきちんと示すことができるかどうかが課題。学術的な研究をベースに推薦書の中で資産をどのように評価するか、解釈するかということです。

**五味** 歴史的都市としてストレートに正面からやつていけるかどうかは難しいのではないかと議論になりました。外との比較を行いながら鎌倉を考えていきたい。

**西村** 都市というと権力者が成長し、庶民が住んでいたところがどうなっていたのかなどがある。ひとつの都市ができる。鎌倉でも武家文化とつなげたような表現で、プレゼンテーションする必要があるのではないかでしょうか。

**稻葉** サムライが世界遺産として説得力を持つかどうか議論になりました。世界に向かって、サムライ文化の役割を簡単かつ的確に説明できることが大事だという話も出了しました。

**五味** サムライは多義的で、鎌倉時代には武士の作った集団が武家を形成します。幕府という政権の仕組みを成します。サムライ=武士というのは江戸時代以降になってからのことです。

## ●三方の山をどうとらえるか――

**西村** 鎌倉では20を越える構成資産をバッファゾーンでつないでいますが、かなり分散していることが議論になりました。

**ヤング** まず最初に「顕著な普遍的価値」(OUV)が何かということをはっきりさせることです。武家文化は基盤が広い。禅宗、他の宗教、さらに非宗教的建造物も見なければなりません。そのなかで、たくさんの寺院が武家館跡に建てられていたことは他にない特徴です。武力の象徴を危険でないものに変えようとしていることに学ばされました。

世界遺産委員会は管理が難しいこともあって、分散された資産を嫌がります。三方山、一方海という地形が重要だということに気付きました。推薦書を書くときに山稜の重要性を示すべきです。(推進協議会作成) 地図では山を打ち出し、谷があり、寺院があります。この地図からよい印象を受けます。

**ル・ズー** 山を資産の一部として守るということになれば、文化的景観というような形で、資産の中に含める方法もあります。

**西村** 山を資産の一部に含めるとしても文化財保護法でどこまで守れるのかが難しい問題です。

**五味** 山の重要さは最初から気がついていました。